

JIA 長野県クラブ 30

社団法人 日本建築家協会

1998. 4. 1

▼パネルディスカッション「地方の建築家の社会的役割」



▲建築家 針生承一氏による
講演「際の美学」



今こそ原点に

副会長
高橋重徳

最近の私たちを取り巻く社会環境は、一段と厳しいものがあります。それは個人に限らず、団体等の在り方も含めて新しい時代への対応の試練を受けているのでしょう。戦後50年の経過は、様々な成果と同時に問題点も顕著にしました。間近に迫った21世紀への変革の時なのかもしれません。従って、我々建築に携わる者にとっても基本的な意識改革は当然のこととされます。こうした状況からいかに抜けだし、新しい創造を社会に提供できるのかを考え、行動しなければなりません。

建築とは…、建築家とは…、職能とは…等々、あらゆることに對し、もう一度原点に戻って見つめ直し、真剣に考える時期であり、そうすることで先が明快に見えて、実際に行動することができるのではないのでしょうか。やもすると自己中心的になってしまった私たちは、今こそ仲間と本音で語り合い、相手を理解し、協調し、高い目標に向かって協力し、行動する姿勢が必要です。そうしなければ社会から受け入れられなくなるでしょう。それにはまず、会員相互のコミュニケーションを大切にすることだと思います。常に新鮮で適格な情報を交換し、社会ニーズに合ったタイムリーな情報を提供し、行動することがますます重要になるでしょう。



オリンピックに感じたこと

監査
渡辺一成

第18回冬季オリンピック長野大会も、2月22日の閉会式を最後にすべての日程を終了しました。

期間中、長野駅周辺には人があふれ、まるで六本木が原宿、いや外国の街にいるような錯覚さえ時には感じるほどでした。我々に数々の愛と感動を与えてくれたメダリストたちの活躍は、今も心の中に残っています。

本大会を成功に導いたのは、主催者はもちろん、忘れてはいけないのは陰で大会運営、競技を支えた多勢のボランティアです。主催者、選手、観客がそれぞれの立場で自分の役割を演じ、それがすべてマッチした時、そこに感動があるのだと思います。これは建築に置き換えても同じことが言えるのではないのでしょうか。

このオリンピックを契機にNAGANOは全世界に向けて発信しました。「NAGANO…Where?」から「I know NAGANO」になったのです。

我が長野県クラブも世界に通用するようになりました。有名な照明デザイナーが「デザインは世界に通用する言語だ」と言っていました。私も自分の立場の中で色々な活動に積極的に関わり、街づくりや地域社会へ少しでも役立てばと思っています。

北信

無条件降伏のわたし



君島 弘章
君島弘章建築設計事務所

何を隠そう、わたしはクルマが大好きである。イタ車の信じられないほど脳天気な造られ方をしたフィアットパンダ。このクルマで味わったガソリン漏れの恐怖…。だけど、徹底したポリシーをひしひし感じる安価なクルマに、身も心も奪われ、建築の設計思想までも影響されてしまったのだ。妻は英国ランドローバーという今の時代に似つかわしくない大飯喰らいのクルマを所有し、我が家全員を運ぶのにチョー役にたっている。

一昨年、大雪の中、現場監理からの帰宅途中、我がパンダは不覚にも側溝に脱輪してしまい、脱出したときにドライブシャフト損傷という大けがを負ってしまった。

修理工場の人から「もう買い換えた方がいいですよ」と言われ、「今度はアルファロメオのスパイダーを買おう」とショックから希望へと子供のように立ち直った。家に帰りニコニコしながら妻へ「アルファロメオ」と言った途端、「駄目です」と即座に言われ意気消沈。最終目標は設計工房から出発したボルシェというメーカーのクルマに乗ってみたいのだが、今はイタ車が面白い。数日後、妻をつれてローバー社へ行き英国のオープンミッドシップカーを指差し「このオープンカーが欲しい」と嘆願し駄々をこねてみたが、ペケ、×。

意気消沈の私は更に考えてはみたものの、完全無欠でなく、すぐに壊れるお茶目なイタ車が好きだ。「ああ、愛しのアルファ」。

今度こそはとフィアットバルケッタという官能的なイタリアンカーを希望した。が、生意気だという。引くに引けず、夫婦喧嘩に突入。なにがなんでもバルケッタ…。はじめは威勢が良かったのだが、意気地無しの方は程なく白旗無条件降伏となった。考え抜いた結果手にしたクルマは、ホンダさんちのビート。これがまた走るだけを取り柄のクルマで僕のオモチャとなっている。

「ハレ」と「ケ」という分類法のなかでクルマが「ハレ」から「ケ」のサイドに場所を持つようになった。人生に特別なイベントとしての「ハレ」があることは勿論だけど、僕等の生活を成り立たせているのはそういう特別な晴れ舞台でなく、ありふれた「ケ」である。だからといって虚しいだけの退屈な行為ではない。それが虚しいければ、生活することそのものが虚しいということにならざるを得ない。問題は「それを楽しい行為に変えることによって生活そのものを楽しくする」とは徳大寺有恒大先生のお言葉。ありがたや。

東信

情報化社会の建築



依田 政司
㈱依田建築設計事務所

「夢と感動をありがとう」マスコミのキャッチコピー通りに長野オリンピックは感動を与えてくれた。エムウェーブを沸かせた清水選手はひたむきで真面目な好青年で感心した。吹雪の白馬での大逆転劇。ジャンプ団体戦にも興奮した。まったく原田さんはハラハラドキドキさせてくれる。だから国民的な人気者なんだろう。それからシンデレラガールの多英ちゃんは可愛かった。彼女はきっと人気者になるだろう。そんな予感がする。何はともあれ、今世紀最後のオリンピックは多くの若者達の活躍によって成功に終わった。「ナガノ」はながく人々の記憶に残ることだろう。

ビックイベントが平凡な日々を与えてくれた感動と興奮から覚醒しつつある今、次のようなことを想っている。

大多数の人がそうであるように、実は私も直にオリンピックを観戦したわけではない。テレビというメディアを通じて会場にいる人達、あるいは同じようにテレビで観戦している人達と、感動と興奮の時間を共有しただけのことである。驚異的なメディア技術（ソフト、ハード）の進歩によって、場所を超越して（つまりワープして）同じ感動と興奮を共有（勿論、疑似的ではあるが）することが可能になったわけである。

ところで、21世紀は本格的な情報化社会の到来する時代だと巷間言われているが、建築の側から考えてみると、マス&マルチメディアが主役の情報化社会とは、場所性や時間の差異を極限まで均質化していく社会なのではないかと、いささか不安になったりするのである。

言うまでもなく建築の空間とは、物性と形態そして場所性と時間によって語られるべき優れた対象でもある。

20世紀は大量生産・大量消費の時代であり、建築物でさえ工業製品の一種とみなされ、工業製品抜きでは建築はつukれないという物性の変化と多様性に揺れた時代であった。そんな時代において先輩たちは、巧みに工業製品を使い、手造りをさえ感じさせる作品をものにし、見事に時代と共生してみせた。

来る世紀の初頭は、情報化社会の進捗状況によって、場所の持つ意味や時間の感覚など建築の関わる価値観は一時揺れるかもしれない。しかし私達が建築の本質は不変であると信じ、作品づくりを通して物性や場所性の差異を顕在化させることで、その差異が価値の多様化した情報化社会において普遍化できるのではないかと密かに想っているのである。

南信

建築とヒューマニティー

—建築家は誰のために仕事をするのか—



篠田 尚幸
NAO設計室

昨年、1月と6月の2回、ドイツを訪れる機会に恵まれた。冬、夏のそれぞれ違う気候風土を体験できたことは、ドイツ（ヨーロッパ）の建築を理解する上で大いに役だった。冬：外はライトグレーの世界、寒くて夜は長い。ガッシリした気密性の高い窓、屋根や壁の分厚い断熱材は熱を外へ逃さないためのもの。夏：外は緑に輝き、涼しくて昼が長い。湿度が低く、気温も低い、ホテルに冷房設備が無いのも納得。

本来、住宅（建築）のスタイルは、その土地の気候風土や歴史によって生まれ、培われてきたものである。このごく当たり前のことが今の日本では、往々にして忘れられ、気候風土のまったく違った国の住宅をまねた物が全国に建てられている（PRANはドイツの住宅によく似ている）。

「地球温暖化防止京都会議」と前後して、マスメディアにおいても、環境問題がクローズアップされてきた。この環境問題についても、ドイツは先進国である。しかし、いくらドイツがすばらしくてもその「気候風土」まで輸入するわけにはいかない。ではどうしたらいいのか。フライブルクのレストランで、期間限定のアスパラガス料理をご馳走になりながら、通訳の方からドイツでの生活の話をついた。仕事の都合で時々日本に行くと、東京は非常に疲れる街だという。世界中の物、情報が溢れ24時間動いている。痒い所に手が届くサービスまである。けれど疲れてしまう街だという。なぜだろうか？

それは「人間の暮らしというものを、どの方向から捉えるか」という物の見方や軸足の位置の違いから来るのではないだろうか。ドイツでの暮らしが心地よいのは、生活の「しくみ」を市民の権利という方向から捉える発想法、長い歴史の中でのブルジョアジーの権利獲得への精神が今も受け継がれているからではないだろうか…。と、ワインに酔った頭で考える。「私は環境問題について絶望しないし、希望も持ち過ぎない。そして市民規模で動かしていく。それも世界市民規模で動かしていく。社会や会社、国家を巻き込んでいくことに希望が生まれ、それは現に動き始めている」ある講演会での、大江健三郎氏の短いけれど非常に示唆に富んだこの言葉をここに紹介して、その答えとしたい。あなたの軸足の位置はどこ？

賛助会

不景気をぶっとばせ



坂田 守夫
坂田工業(株)

日本全体が長野オリンピックに釘付けされ、大成功のうちに終了しましたが、終ってみたら何かもの足りない。それもそのはず、世界中が不況の渦の中。特にアジア地域は日本も含めてどうにもならない状態です。本当に頭が良く統制力のある政治家が今後の日本を考えてくれればよいのですが、自分の懐に金品を入れようとするばかりに頭を使い、国のため、国民のために一生懸命勉強しようとする政治家が非常に少なくなっています。このため、国を動かすのは必然的に役所ということになります。官僚政治は国が安定している時には順調に進みますが、今のようになってしまうと、自分の責任は一切認めないで人に非を押しつけます。「民間では考えられないことでも官僚世界ではまかり通る」という不思議な人達が多いのも特徴かもしれません。省や庁を少なくしても高い人件費を減らさなければ何にもなりません。日本のこれからを考えれば、現在の役人を3分の1以下に減らすことを早急に実行するべきだと思います。

オリンピックと建物



小野澤 秀世
中信電機(株)長野支店

まさに世紀の祭典「長野オリンピック」は日本中を興奮と感動の嵐に巻きこみ、また数々のドラマを残してその幕を閉じました。イベントは種々な要素で演出されるものですが、その大きな要素の一つが「建物と設備」だと改めて実感しました。長野オリンピックはビックハット、Mウェーブ、ホワイトリングなどの競技用建物が造られました。長野には無かった大きくて高い天井、美しく機能的な照明、また大迫力でありながらクリアな音を出す何十個ものスピーカー群。一流の技術と製品の成せる業でしょうが、我々一般人にとっては十分に感動するものでした。

もう一ヶ所、長野駅の広いコンコースと東西自由通路。これもまた長野には無かった空間です。期間中の賑わいは大変なもので、渋谷の雑踏を越えるものでした。

このように建物は感動のもとです。その「もと」をつくる業界にいることを誇りに思い、不況にめげずにがんばりましょう。

クラブインサイド

総務会(コミュニケーションファイル作成) 高橋重徳

11月28日、「事務所会員・賛助会員コミュニケーションファイル」を160部作成した。手づくりで、終日の作業となったが、ご活用をいただきたい。

第3回正副会長会 出澤 潔

12月15日、カミムラ建築研究室の会議室で開催。文化講演会・学生卒業設計コンクール・会員作品展などを中心に話し合い、経費の切り詰めを再確認。

第3回事業委員会 上村保弘

1月20日開催。第6回文化講演会の第2部パネルディスカッションについて検討。「地方の建築家の社会的役割」をテーマに、講師・針生承一氏と会員代表が話し合う。

第2回総務委員会 関 邦 則

新規定に従い選定議員選挙が行われたが、1月28日の投票締切り後に総務委員会で集計を行い、幹事に報告した。1月30日にメルパルク長野にて開催。

第6回幹事会第6回文化講演会新年会 関 邦 則

オリンピック開催1週間前の1月30日、長野駅前メルパルク長野にて開催。幹事会では学生卒業設計作品コンクールと通常総会のスケジュールを確認した。次期役員選挙のための選定議員投票結果により須田、佐藤、川上、新井(典)、倉橋、久保田(三)、片倉、依田氏を指名した。信州建築家カタログはアンケート結果によって予算規模は縮小するものの参加希望者は前回並みで詳細再検討する。終了後、本部高野事務局長から近況報告をいただく。続く文化講演会は東北支部長の針生承一氏を招いての「際の美学」と題する講演及び「地方の建築家の社会的役割」と題するメンバーによるパネルディスカッション。150名ほどの参加者は講師のデザインに目を見張り、地域環境プロジェクトや入札問題への取組などについて聞き入った。新年会も多数参加で大盛況。

第4回建築家カタログ作成検討委員会 久保田 三代

2月13日開催。2回目のアンケート結果、参加人員に変化は無いが、多数の人が参加希望金額をダウン(平均30%)の実情。参加者全員で集い、種々工夫して進めていく。

選定議員会 関 邦 則

新規定に基づき、選挙で選ばれた8人の選定議員が2月13日に松本市ホテルサンルートに集まって開催された。新しい会長に出澤氏、副会長に松下氏、上村氏、高橋氏、関が、又監査には櫻井氏、渡辺氏が再選された。

第4回正副会長会の報告 出澤 潔

2月27日、JIA長野県クラブ事務局で賛助会正副会長を交えた正副会長会を開催しました。新役員が選定議員会で選定されたことを受けて新旧役員の引継ぎと来期の幹事会・委員会構成・事業内容などを主な議題として、長時間熱心な討議が行なわれました。新年度に向けて熱意の感じられる会でした。

平成10年度通常総会へのご案内 関 邦 則

今年の通常総会は5月12日に長野市山王共済会館で開催されます。新しい方式により新しい役員が選任されますのでご出席願います。記念講演会講師は雑誌「新建築」の元編集長であった中谷正人氏です。会員作品展と学生卒業設計コンクール表彰式等もどうぞご期待。

クラブアウトサイド

第11回支部会員委員会 久保田 三代

1月20日、JIA館で「新春の集い」が200名を集め開催。3月には、賛助会員との会員委員会(記念講演・懇親会)が椿山荘において開催された。

第5回支部役員会 関 邦 則

1月28日JIA館。報告事項は本部・支部事務局体制の異動、指定法人化に関する討議、UIA名古屋大会招致、中国地震義援金その他。続いて当クラブはか埼玉・神奈川県地域会への事業助成費と、かねてより懸案だった委員会規定(任期)の改正が承認された。役員定数削減と東京地域会準備委員会については提案があり次回に協議。

第10回支部総務委員会 高橋重徳

2月17日開催。東京の「地域会」についての検討書と役員定数改正についての提案書の両案(幹事に提案済)を再検討し、意見交換を行った。また財務問題に関わる事務局体制の変更についても報告された。

第5回JIAリフレッシュセミナー 片倉 隆 幸

3月1日～3日、熱海リフレッシュセンターで開催。「JIA建築家資格制度の提案-勇気ある改革を-」と他のテーマについて分科会でディスカッション。AIAのように、市民社会が信用できる、個人個人のプロフェッショナルな、献身的な、責任のある、思いやりを持って、会員1人1人の自覚と運動を期待したい。

第6回支部役員会 関 邦 則

3月25日、椿山荘にて開催。決算見通し(何とかなる)と新年度予算について協議。JIA千葉が地域会に。4月23日地域サミット予定。10周年記念大会記録集を頒布(2,100円)。次回は新旧合同役員会となる。

— 新入会員紹介 —

賛助会員 (株) 刷新 (長野市)



JIA長野県クラブ

編集人 関 邦則
発行人 出澤 潔
発行所 JIA長野県クラブ
長野市南長野妻科
426-1
長野県建築士会館内
TEL 026 (232) 3897
FAX 026 (232) 5303

作成 新建新聞社